

茨城大学人文学部 人文学科彙報

(1999年10月～2000年9月)

Ⅰ. 1999年10月～2000年9月の期間における海外出張・内地研究について

○相沢 敬久 (イギリス文学・文化)

2000年3月16日～2000年3月26日, フランス (プロヴァンス, ブルターニュ, ノルマンジー), 中世フランス文化とケルト文化の現地調査.

2000年9月18日～2000年9月27日, チェコ (プラハ)・オーストリア (ウィーン)・ハンガリー (ブタペスト), バロック文化とジャポニズムの現地調査.

○青山 和夫 (文化人類学)

2000年4月4日～2000年4月11日, アメリカ合衆国ペンシルヴェニア州 (フィラデルフィア市), 第65回アメリカ考古学協会年次大会研究発表のため, “Craft Specialization, Exchange, and Classic Maya Urbanism: Obsidian Evidence from the Copan Valley and the La Entrada Region, Honduras.”

2000年7月15日～2000年7月21日, グアテマラ共和国 (グアテマラ市/グアテマラ国立考古学民族学博物館), 第14回グアテマラ考古学シンポジウム研究発表のため, “La Subsistencia del Formativo en Albeño y Especialización Artesanal Clásica Maya en Aguateca: La Evidencia de las Microhuellas de Uso sobre la Lítica.”

2000年7月22日～2000年8月23日, グアテマラ共和国 (グアテマラ市/アグアテカ遺跡研究所), 古代マヤ文明の現地調査.

○伊藤 哲司 (社会心理学・社会行動論)

2000年4月25日～2000年5月2日, ベトナム (ハノイ/ハノイ外国語大学), 第1回越日インタースピーチ大会参加 (ベトナム語でのスピーチ発表), ハノイの路地に住む人々について.

2000年8月16日～2000年9月1日, ベトナム (ハノイ・ホーチミン市/ベトナム社会人文学国家センター), 「ベトナム戦争の記憶と語り」の聞きとり調査.

○植野 弘子 (社会人類学)

2000年5月15日～2000年6月1日, 台湾 (台南県), 王醮儀礼の調査研究.

○大島 一芳 (アメリカ文学)

2000年9月4日～2000年9月29日, アメリカ合衆国 (Yale University/New Haven), 英語教授法の視察と文献収集.

○佐藤 和夫 (ドイツ文学)

1999年3月24日～2000年1月23日, ドイツ他 (ブレーメン市他/ブレーメン大学他), エーリヒ・ケストナーに関する研究 [文部省在外研究員].

○澁谷 浩一 (内陸アジア史)

2000年5月22日～, ロシア連邦 (モスクワ/ロシア科学アカデミー極東研究所), 文部省在外研究員.

○鈴木 由紀生 (認知心理学)

2000年8月28日～2000年9月8日, スイス (チューリッヒ/交通安全研究所)・ドイツ (レーゲンスブルグ/レーゲンスブルグ大学)・スイス (ベルン/クワサール), スイスとドイツの交通心理学研究の調査と国際交心理学会大会参加.

○藤井 文男 (一般言語学)

2000年3月15日～2000年3月26日, ドイツ (ベルリン/フンボルト大学)・スイス (チューリッヒ/チューリッヒ大学), 言語学コロキウム参加・発表/共同研究打ち合わせ, „Zum theoretischen Status adsententialer Partikeln in der Wortstellungstypologie —Eine Fallstudie aus einigen Sprachen Südostasiens—.“

○真柳 誠 (中国科学史)

2000年4月22日～2000年4月28日, 中国 (北京/中国中医研究院), 日中共同研究「日本現存の中国散逸古医籍の伝承史研究利用と公表 (第三次)」(国際交流基金) 研究報告会.

2000年6月28日～2000年7月2日, 台湾 (台北/台湾中央研究院), 第3回国際漢学会議出席.

2000年8月1日～2000年11月27日, 台湾 (台北/中央研究院), 同所李建民氏と共同で「台湾に保存される日本関連古医籍の近現代伝承史と書誌の調査研究」を実施.

2000年9月6日～2000年9月13日, イギリス (London/University of London - Centre for the History and Culture of Medicine, School of Oriental and African Studies [SOAS]), Conference on the Dunhuang Medical Manuscript (at SOAS and Needham Research Institute, Cambridge).

○茂木 雅博 (日本考古学・博物館学)

2000年7月26日～8月14日, 中国 (敦煌研究院), 2000年敦煌学国際シンポジウム発表, 河西回廊調査, 「日本におけるランドン・ウォーナーの評価」.

2000年8月26日～9月1日, 中国 (吉林省集安県), 高句麗好大王碑の調査.

1999年9月27日～10月3日, 中国 (西安/西北大学), 日本の天皇制と天皇院 (集中講義).

II. 1999年10月～2000年9月の期間における学外研究活動について

(1) 著書・論文・翻訳の公刊

○青山 和夫 (文化人類学)

‘Ancient Maya State, Urbanism, Exchange, and Craft Specialization: Chipped Stone Evidence of the Copan Valley and the La Entrada Region, Honduras’, Pittsburgh: University of Pittsburgh Press 1999, 227ページ (単著).

「新しい古代マヤ文明観から異文化理解を考える —“マヤの水晶ドクロ”のいかさま—」,

『科学』70/3 (2000), pp. 170-174.

‘Los Mexicanistas del Japón: Un Ensayo Historiográfico’, in: *Historias* 45 (2000), pp. 137-165.

‘Determining the Geological Provenance of Obsidian Artifacts from the Maya Region: A Test of the Efficacy of Visual Sourcing’, in: *Latin American Antiquity* 11 (2000), pp. 269-282.

「ラ・エントラダ計画」, 大貫 良夫 他編 『新訂増補ラテン・アメリカを知る事典』, 東京: 平凡社 1999年12月, p. 547.

「スモ」, 「チョルティ」, 「トルパネス」, 「パヤ」, 「ミスキート」, 「レンカ」, 「ホンジュラス」, 「ニカラグア」, 綾部 恒雄 編 『世界民族事典』, 東京: 弘文堂 2000年7月, pp. 339, 412, 458f., 529, 665, 757f., 1035f., 1039f.

‘La Especialización Artesanal y las Actividades Cotidianas en la Sociedad Clásica Maya: Análisis Preliminar de las Microhuellas de Uso sobre la Lítica de Aguateca’, LAPORTE, Juan Pedro *et al.*, eds., *VIII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, Guatemala: Ministerio de Cultura y Deportes, Instituto de Antropología e Historia, Asociación Tikal 2000, pp. 215-231.

○石井 宏典 (社会心理学・文化心理学)

「同志会」という共同の物語 — 沖縄のある集落出身者たちの並ぶ場所 —, やまだ ようこ 著 『人生を物語る — 生成のライフストーリー —』, 京都: ミネルヴァ書房 2000年7月, pp. 113-142.

○伊藤 哲司 (社会心理学・社会行動論)

『性格の変容と文化』, 東京: ブレーン出版 2000年2月 (シリーズ「人間と性格」第4巻), 321ページ (共著).

「ハノイの路地のエスノエッセイ (2) — フィールドワークで異文化を識る —」, 茨城大学人文学部紀要 『人文学科論集』33 (2000), pp. 21-42.

「ハノイの路地からみえる人間関係」, 『アジア都市研究』1 (2000), pp. 15-24.

○植野 弘子 (社会人類学)

『台湾漢民族の姻戚』, 東京: 風響社 2000年2月, 430ページ (単著).

『日本の家族における親と娘 — 日本海沿岸地域における調査研究 —』, 東京: 風響社 2000年6月, 150ページ (共編).

「婚出する娘 — 漢民族の家族研究における一視角 —」, 宮良 高弘/森 謙二 編 『歴史と民族における結婚と家族』, 東京: 第一書房 2000年7月, pp. 273-304.

○大畠 一芳 (アメリカ文学)

「意識と形式の分断 — 『ある婦人の肖像』論 —」, 茨城大学人文学部紀要 『人文学科論集』33 (2000), pp. 1-15.

○岡崎 正男 (英語学)

『英語学文献解題 第6巻 音声学音韻論』, 東京: 研究社 1999年11月, xx+324ページ (項目分担執筆および文献目録編集協力).

- 「文アクセント: 意味論と音韻論の接点」, 『音韻研究』3 (2000), pp. 113-120.
- 片山 洋之介 (哲学)
 「〈よそ〉の受容」, 『理想 (特集: サルトル. 今)』665 (2000), pp. 39-50.
- 加納 喜光 (中国文学・哲学)
 『いつも間違ってしまう漢字大疑問』, 東京: 講談社 2000年2月, 458ページ (単著).
 『似て非なる漢字の辞典』, 東京: 東京堂出版 2000年7月, 360ページ (単著).
- 神田 大吾 (フランス文学)
 「これは翻訳ではない (1) — 『砂の子ども』 誤訳の分析 —」, 茨城大学人文学部紀要『人文学科論集』33 (2000), pp. 103-131.
- 黒田 浩司 (臨床心理学)
 「ロールシャッハ・テストにおける W の顔反応 — 非行少年と境界例者の比較を中心に —」, 『ロールシャッハ法研究』3 (1999), pp. 62-71.
 「ストリートの光と影: おしゃれっこ」, 茨城大学人文学部紀要『人文学科論集』33 (2000), pp. 1-19.
- 小泉 由美子 (アメリカ文学)
 「エミリー・ディキンソン — 母不在のテキスト —」, 茨城大学人文学部紀要『人文学科論集』33 (2000), pp. 133-146.
 「アメリカ女性詩人論 — 母と娘の叙事詩: シャーロン・ドゥビアゴの『南アメリカ, 我が娘』」, 『ジャパン・ポエトリー・レビュー』6 (2000), pp. 64-67.
- 小井戸 光彦 (18世紀フランス文学)
 「「フランス的ヨーロッパ」をめぐる — 普遍主義とナショナリズムの相剋 (4) —」, 茨城大学人文学部紀要『人文学科論集』33 (2000), pp. 89-101.
- 佐々木 寛司 (日本史)
 「地租改正と農地改革」田中 彰 編, 『近代日本の内と外』, 日本: 吉川弘文館 1999年11月, pp. 163-190.
 『隣接領域比較史論』佐々木 寛司 編, 水戸: 茨大教育研究開発センター 2000年3月, pp. 1-34.
- 杉井 和子 (日本近代文学)
 「「住吉」連作における〈私〉の遍歴」, 『国文学解釈と鑑賞』別冊『川端康成 旅とふるさと』(1999), pp. 253-263.
 「小説における語りの方 法 — 明治の翻訳における一人称 —」, 茨城大学人文学部紀要『人文学科論集』33 (2000), pp. 39-53.
 「「雪国」の駒子の威力」, 『江古田文学』42 (1999), pp. 23-27.
 「英雄を笑う「団団珍聞」の総生寛 — ニュースと史実と演劇と —」, 『笑いと創造 第二集』, 東京: 勉誠出版 2000年3月, pp. 167-191.

○西野 由希子 (中国文学)

「梅雨の夕べ」施 贇存 (翻訳), 芦田 肇 主編『中国現代文学珠玉選 小説1』, 東京: 二玄社 2000年3月 (共著), pp. 79-90.

「上海のフォックストロット」穆 時英 (翻訳), 佐治 俊彦 主編『中国現代文学珠玉選 小説2』, 東京: 二玄社 2000年3月 (共著), pp. 71-81.

「開放的故事——西西作品評析——」(中国語), 黄 維梁 編『活発紛繁的香港文学(下)』, 香港: 香港中文大学 2000年3月.

「授業進行へのネットワークの利用」, 『教員がつくりかえる大学——人文社会諸学の専門教育に関する研究——』(1999年度茨城大学人文学部FD研究会報告書), 水戸: 茨城大学 2000年3月, pp. 25-33.

○長谷川 伸三 (日本社会史)

『高根沢町史 通史編・上巻』, 栃木県: 高根沢町 2000年3月, 900ページ (共著).

『稲武町史 通史編』, 愛知県: 稲武町 2000年3月, 1064ページ (共著).

『常陸国石神城とその時代』, 茨城県: 東海村教育委員会 2000年2月, 199ページ (共著).

「史料紹介「水臣證発伝」(共著), 『鉾田町史研究・七瀬』10 (2000), pp. 38-73.

「文久元・三年の佐原騒動と水戸藩尊攘派」, 田中 彰 編『幕末維新の社会と思想』, 東京: 吉川弘文館 1999年11月, pp. 152-178.

○肥爪 周二 (国語学)

「日本韻学用語攷(一)——清濁——」, 茨城大学人文学部紀要『人文学科論集』33 (2000), pp. 17-38.

「国語学・古代(音韻・文字・表記)」, 『文学・語学』165 (1999), pp. 62-63.

○深澤 安博 (ヨーロッパ現代史)

「いま, 「国民史」をどう書くか」, 『史風』5 (2000), pp. 1-6.

「スペイン内戦とモロッコ(上)」, 茨城大学人文学部紀要『人文学科論集』33 (2000), pp. 43-66.

「1999年の歴史学界——近代・南欧——」, 『史学雑誌』109/5 (2000), pp. 351-355.

○藤井 文男 (一般言語学)

「中国語にはなぜ二種類の疑問文があるか? ——「日曜言語学」のすすめ(その2)——」, 茨城大学人文学部紀要『人文学科論集』33 (2000), pp. 67-88.

○堀口 育男 (日本古典文学)

「板倉節山と中山文節」, 『群馬文化』263 (2000), pp. 23-35.

○真柳 誠 (中国科学史)

『日本現存中国稀覯古醫籍叢書(第一輯)』, 北京: 人民衛生出版社 1999年10月, 1572ページ (共著).

『日本現存中国散逸古医籍(第3報)』, 北京: 中国中医研究院・中国医史文献研究所 2000年

3月, 142ページ (共著).

「漢方一話 処方名のいわれ 75 —柴胡清肝湯—」, 『漢方診療』18/5 (1999), p. 4.

「古医籍電子テキストの現状と方向性」, 『日本東洋医学雑誌』50/3 (1999), pp. 393-404.

「近代中国伝統医学と日本 —民国時代における日本医書の影響—」, 『漢方の臨床』46/12 (1999), pp. 1928-1944.

「漢方一話 処方名のいわれ 78 —抑肝散加陳皮半夏—」, 『漢方診療』18/6 (1999), p. 15.

「漢方一話 処方名のいわれ 79 —大黃甘草湯—」, 『漢方医学』24/1 (2000), p. 32.

「書評: 小曾戸洋著『漢方の歴史 —中国・日本の伝統医学—』」, 『日本医史学雑誌』46/1 (2000), pp. 108-109.

「漢方一話 処方名のいわれ 81 —当帰飲子—」, 『漢方医学』24/2 (2000), pp. 82.

「漢方一話 処方名のいわれ 84 —治打撲一方—」, 『漢方医学』24/3 (2000), pp. 12-13.

「巻頭言 東洋医学の情報技術革命を待つ」, 『東洋医学』28/7 (2000), pp. 12-13.

「漢方一話 処方名のいわれ 85 —清肺湯—」, 『漢方医学』24/4 (2000), pp. 175.

「医史学より見た日中伝統医学の継承と発展 —乖離の史的認識から相互理解へ—」, 『漢方の臨床』47/8 (2000), pp. 1105-1124.

○茂木 雅博 (日本考古学・博物館学)

「常陸の前方後円墳 (1)」, 水戸: 茨城大学 2000年3月 (茨城大学人文学部考古学研究報告 3), 150ページ (共著).

「北周田弘墓」(原州連合考古報告 III), 東京: 勉誠社 2000年6月 (共著).

「日本におけるランドン・ウォーナーの評価」, 『博古研究』19 (2000), pp. 1-10 (共著).

「常陸国風土記の香澄の里」, 『古代学研究』150 (2000), pp. 148-150.

「古墳群のとらえ方を検討する」, 『季刊考古学』71 (2000), pp. 22-26.

(2) 学会その他の活動

○相沢 敬久 (イギリス文学・文化)

「オリエンタリズム, ジャポニズムの研究と動向」シルヴァン英米文学研究会, 白雲荘 (那須), 2000/9/4.

○青山 和夫 (文化人類学)

「マヤの古代文明」出羽庄内国際交流財団, アマゾン博物館 (山形・鶴岡), 1999/10/2.

「先コロンブス期メソアメリカの都市」都市起源の比較考古学研究会, 金沢大学 (金沢), 1999/11/13.

「ホンジュラスの考古学遺跡と観光」国立民族学博物館, 国立民族学博物館 (吹田), 1999/11/28.

「生産と交換から見た古代マヤ社会・アグアテカ遺跡発掘報告」アンデス文明研究会, 中央大学駿河台記念館 (東京), 2000/1/22.

「古典期マヤ人の日常生活 —グアテマラ・アグアテカ遺跡出土遺物の分析—」日本民族学会, 一橋大学 (東京), 2000/5/21.

「縄文時代相当期のメソアメリカ」国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員会, 国立歴史民俗博物館 (千葉・佐倉), 2000/6/19.

○石井 宏典 (社会心理学・文化心理学)

「「同志会」という共同の物語 —沖繩のある集落出身者たちのライフストーリー—」「出稼ぎ・過疎・高齢化」研究会, 弘前大学 (弘前), 2000/2/22.

○伊藤 哲司 (社会心理学・社会行動論)

「ハノイの路地からみえる人間関係」茨城大学 (公開講座), 三の丸庁舎 (水戸), 2000/2/2.

「「あの世」と「この世」の関係イメージ (15) —ベトナムにおけるたましいの形と移行—」日本発達心理学会, 東京女子大学 (東京), 2000/3/28 (ポスター発表).

「研究対象としての「日本」—アジアの視点から—」日本発達心理学会, 東京女子大学 (東京), 2000/3/28 (ラウンドテーブル).

「人はなぜ俗信が気になるのか —俗信と科学のビミョーな関係—」ひたちなか市民大学, ワークプラザ勝田 (ひたちなか), 2000/9/9.

○大久保 伸子 (仏語学)

シンポジウム「フランス語をめぐる言語と国家の問題について」(企画・司会) 日本フランス語学会, 慶応大学三田校舎 (東京), 2000/5/19.

○加納 喜光 (中国文学・哲学)

「〈一〉の起源」東京都高等学校数学研究会, 都立工芸高等学校 (東京), 2000/5/19.

○黒田 浩司 (臨床心理学)

「子どもの行動をどのように理解し, どのようにかかわるか —カウンセリングの現場から—」北茨城市いきいきわらべ推進委員会・北茨城市教育委員会, 北茨城市ふれあいセンター (北茨城市), 2000/7/12.

「子どもの問題行動の理解と関わり方」日立市教育研究所・日立市教育研究会, 油繩子コミュニティセンター (日立市), 2000/8/10.

「人間関係の問題から見えてくるもの」日本理学療法士協会第19回関東甲信越ブロック協議会, 土浦市亀城プラザ (土浦市), 2000/9/2.

○佐々木 寛司 (日本史)

「明治維新と茨城の地域」北茨城市民大学, 市民ふれあいセンター (北茨城市), 2000/7/23.

○鈴木 由紀生 (認知心理学)

「大人が変われば子供も変わる」茨城県生涯学習センター, 里美村幼稚園 (里美村), 1999/11/6.

「生命の大切さについて考える」美野里中学校 PTA, 美野里中学校 (美野里町), 2000/7/15.

「親が変われば子供も変わる」石岡市教育委員会, 国府台ふたば幼稚園 (石岡市), 2000/

5/27.

○西野 由希子 (中国文学)

「香港の過去/未来 —文学・芸術を通して—」公開講座〈ミレニアムの世界から見る日本〉, 茨城大学インフォメーションセンター (水戸), 2000/2/16.

○長谷川 伸三 (日本社会史)

「徳川家康・家光と日光東照宮」北茨城市教育委員会, 北茨城市ふれあいセンター (北茨城市), 2000/6/18.

○深澤 安博 (ヨーロッパ現代史)

「スペイン内戦とモロッコ」西洋近現代史研究会, 青山学院大学 (東京), 2000/7/8.

「20世紀の政治・社会・文化の変容」北茨城市教育委員会, 北茨城市民ふれあいセンター (北茨城市), 2000/6/17, 24, 7/2.

○真柳 誠 (中国科学史)

「古医籍電子テキストの現状と方向性」第50回日本東洋医学会学術総会ワークショップ「東洋医学と情報処理」, 東京国際フォーラム (東京), 1999/5/29.

「ことばの日中キャッチボール —料理の語源と敦煌文献—」茨城大学第四回人文学科研究定会, 茨城大学 (水戸), 1999/10/6.

「近代中国伝統医学と日本 —民国時代における日本医書の影響—」京都大学人文科学研究所創立70周年記念国際シンポジウム, 京大人文研 (京都), 1999/11/19.

「中国古医籍佚存状況の統計与分析」国際交流基金助成・日本現存中国散逸古医籍的伝承史研究利用和発表 —第三次報告会—, 中国中医研究院 (中国・北京), 2000/4/25.

「くすりの歴史をひもとく —薬草からバイアグラまで—」ひたちなか市教育委員会, 平成12年度ひたちなか市民大学, ワークプラザ勝田 (ひたちなか), 2000/6/10.

「医史学より見た日中伝統医学の継承と発展 —乖離の史的認識から相互理解へ—」第51回日本東洋医学会学術総会ランチョンセミナー, 国立京都国際会館 (京都), 2000/6/24.

「江戸時期傳入的中國醫書及其和刻」第三屆國際漢學會議, 中央研究院 (台湾・台北), 2000/6/29-7/1.

'Bencao jizhu: The 3 juan Edition and Excavated Manuscripts', Conference on the Dunhuan Medical Manuscript, SOAS (ロンドン) and Needham Research Institute (ケンブリッジ), 2000/9/9-10.

○宮崎 章夫 (心理学)

「快感情による気分の修復効果」日本生理心理学会, 仙台市福祉プラザ (仙台市), 1999/5/20.

○茂木 雅博 (日本考古学・博物館学)

「奈良の古墳と寺」東京電気大学中学校, 東京電気大学中学校 (東京), 1999/10/4.

「東海村石神小学校古墳」東海村教育委員会, 東海村石神小学校 (東海村), 1999/11/25.

「権威の象徴」榎原考古学研究所付博物館, 榎原考古学研究所 (奈良), 2000/4/30.

「日本における Langdon-Warner の評価」敦煌研究院 (中国), 2000/7/30.

「莫高窟と Langdon-Warner」博古研究会, 茨城大学 (水戸市), 2000/9/11.

○渡邊 邦夫 (古代ギリシャ哲学)

「形相が内在するとはいかなることか」ギリシャ哲学セミナー, 東京工業大学 (東京), 2000/9/16.

(3) 科学研究費補助金の受領

○青山 和夫 (文化人類学)

「古代マヤ社会における職業の専門化に関する基礎的研究」(代表), 奨励研究 (A).

○石井 宏典 (社会心理学・文化心理学)

「近代大阪における沖縄諸集落出身者の移動と定着についての社会心理学研究」(代表), 奨励研究 (A).

「日本および東南アジアの外国人コミュニティ」(分担), 基盤研究 (B2).

○伊藤 哲司 (社会心理学・社会行動論)

「ベトナム戦争はどう記憶され, どう語られるのか」(代表), 基盤研究 (B2).

「アジア都市における「小さな社会的な場」の発生と安心空間に関する環境心理学的研究」(分担), 基盤研究 (B1).

「東海村臨界事故の総合研究と地域社会における原子力事故防災教材の開発」(分担), 地域連携推進.

○岡崎 正男 (英語学)

「諸言語の音韻構造と音韻理論に関する総合的研究」(分担), 基盤研究 (A1).

○澁谷 浩一 (内陸アジア史)

「18世紀における内陸アジア史に関する総合的研究」(代表), 奨励研究 (A).

○肥爪 周二 (国語学)

「近世悉曇学の研究」(代表), 奨励研究 (A).

「江戸時代以前の文献資料における日本韻学用語についての研究」(代表), 奨励研究 (A).

○深澤 安博 (ヨーロッパ現代史)

「日本および東南アジアの外国人コミュニティ」(代表), 基盤研究 (B2, 国際学術研究).

「1930年代のスペイン文化 —共和政から内戦まで—」(代表), 基盤研究 (C2).

○藤井 文男 (一般言語学)

「インドシナ諸語の類型論的特質から見る, 言語の普遍的発展パターン」(代表), 基盤研究 (C2).